

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 島根県立農林大学校 学科名 農業科 学年 1年 氏名 なかほら や え 中原 野笑

1 課 題

「私は、即戦力になりたい」

2 意見・提言

(1) 就農しようと思ったきっかけ

私が就農しようと思ったきっかけは、父が牛飼いをしていたからです。幼い頃から牛とふれあい、中学校が終わると牧場の手伝いをするのが、生活の一部ようになっていました。高校生になると就農か動物看護師の道か悩みましたが、結局、動物看護師を養成する専門学校へ進学しました。しかし、帰省して牧場の手伝いをする、「やっぱり牛が可愛い。就農したい」との思いが強くなりました。

生き物の世話は休みがなく飼育管理が難しいことや、体力的にも大変な仕事であることも理解していましたが、それ以上にやりがいや癒しがあり、自然の中で動物とふれあうこの仕事が自分には向いていると考え、父親に相談し、農大肉用牛専攻に進学しました。

(2) 農大における実践学習

私は将来、父の経営している株式会社農援隊「清滝牧場」で働きたいと思っています。就農するためには、「多くの牧場に学びに行く」「牛を見る目を養う」「人脈を広げる」ことが大切だと考え、農大で学んでいます。農大では、学生が主体となって牛の世話をしています。私は、父の牧場で子牛に触れる機会が多かったため、自ら希望し農大の子牛担当になりました。子牛は、母牛に比べ抵抗力が弱く病気になりやすい等、飼育管理での課題が多くありますが、そのたびに「牛に学ばせてもらっている」と強く感じます。

(3) 父の言葉、兄の背中

私は、父に言われて忘れられない言葉があります。それは、「わしらが牛に食べさせてもらってるんだから、人間が偉そうになつたらいけん」という言葉です。これは、牛が家計を支えているという意味だけでなく、「食そのもの」牛の命を頂いている、という父の思いが込められています。それまでそんなことを考えたことがなく、私たちが飼料を与え牛に食べさせていると思っていたため、考えを改める良いきっかけになり、それから牛や全ての生き物に感謝するようになりました。

私の6歳年上の兄は、大学を卒業後、就農を希望し農大に入学しました。兄が農大に入学したと知ったときは驚きましたが、分からないことがあればなんでも相談できる牛飼いの先輩が増え、心強いと感じました。兄は、やりだしたらとことん追求する研究熱心な性格で、自ら希望しアメリカに1年半研修に行っていました。私にとって、父と兄は本当に格好良く尊敬出来る牛飼いの先輩です。

(4) これから

私は、これから、特に3つのことを重点的に実践します。1つ目は、「多くの牧場に学びに行く」ということです。様々な牧場の給餌・哺乳方法、その牧場独自の飼い方を学び、自分の考えに合った技術は積極的に吸収し、就農後に活用します。2つ目は、日々の牛の小さな変化にも気付ける「牛を見る目」を養いたいと思います。3つ目は、意見交換・研修会等にも積極的に参加し、世代を超えた「人脈を広げる」活動を実践します。

そして、これまで、後ろから見ていた父と兄の背中をいつか追い越し、「即戦力」として活躍出来る牛飼いになります。